

1. 酒匂川の氾濫から町を守るための対策を

昨今、地球温暖化の影響から世界中で気象に異常が生じている。

我が国でも台風シーズンは以前より長く、規模も巨大化し、その強力な暴風雨により、全国各地に甚大な被害が発生している。

特に、昨年10月の台風19号は史上最大規模となり、全国71河川で140箇所の堤防が決壊した。

本町でも、水辺スポーツ公園が冠水してしまったが、被災後約5ヶ月が経ち、あらためて酒匂川や町内河川の状態を見てみると、流木や護岸の崩れなど、その爪痕が至る所に残されている。

また、酒匂川の中流域、特に水辺スポーツ公園付近では、大小の石や砂が2～3mも堆積しており、増水時が心配だという声も多く聞かれる。

洪水対策として、台風直撃の可能性が高まる中では、これまでの史実や経験を基に、被害を最小限に食い止める『減災』の取組みが、今こそ重要と考え、次の事項を問う。

- ① 過去の水害の教訓をどのように対策に生かしているか。
- ② 河川管理者への河床掘削の要請とその整備計画は。
- ③ 町による被災後の現状把握と課題整理を踏まえた具体的な対応策は。
- ④ 洪水ハザードマップを踏まえた各種訓練の今後の展開は。